

■ 脱炭素社会の構築 取り組み状況・実績

新車CO2ゼロチャレンジ

2025目標

主な取り組み実績

新車平均CO2排出量の削減	トヨタの環境戦略に準拠した車両の開発	- 構造合理化や軽量高強度材への置き換えによる軽量化を実施 - 新車平均CO2排出量に対して、環境性能の向上および電動車ラインナップの拡充を推進
電動車の普及	超小型BEVの普及に向けたコムの商品開発	- BEV※1：超小型電気自動車コムスはCO2を出さない再生エネルギー電力100%で生産。2012年からの累計生産台数1万台を達成 - HEV※2：アルファード、ヴェルファイア、ノア、ヴォクシー、ランドクルーザー300、LXを生産 - PHEV※3：国内ミニバン初となるアルファード&ヴェルファイアPHEVモデルの生産を開始



超小型電気自動車コムス



ヴェルファイアPHEV

※1 BEV：Battery Electric Vehicle（バッテリー式電気自動車）

※2 HEV：Hybrid Electric Vehicle（ハイブリッド自動車）

※3 PHEV：Plug-in Hybrid Electric Vehicle（プラグインハイブリッド自動車）

工場CO2ゼロチャレンジ

2025目標

主な取り組み実績

生産活動におけるCO2排出量の削減

● 2013年度比▲30%※3

※3 自社+国内外連結子会社(生産系)

実績推移

■ CO2排出量の推移(グループ連結)

年度	CO2排出量(千tCO2)
'13	421
'18	344
'19	344
'20	282
'21	273
'22	275
'23	254
'24	229
'25	141

目標: 295

- 現場監督者が無理なく続けられる日常管理の仕組みを定着させるため、エネルギーの使い過ぎを自動判定・通知するシステムを構築し削減活動を活性化

工務

エネルギー計量器設置、見える化ツールを考案

【図1】見える化ツール

工程単位

社内ルール(設定値)
① 立上げ ② 稼働 ③ 直間

設備単位

現場

エネルギー課監督者12名が塗装課監督者12名がエネルギー日常管理を実践

① 機械立上げの着眼「立上げのムダ」

基準と実感を比較し、早すぎる立上げは是正、次に季節に合わせた最適立ち上げに変更

② 稼働中の着眼「集中管理のムダ」

人がいない工程は点灯せずに通路のみ点灯

③ 直間の着眼「昼間勤務と夜間勤務の意識の差」

反対勤務はわずかな時間でも、省エネ設備停止を実施

- ・監督者自ら工程ごとのエネルギー消費を最小化
- ・デジタル化によりルーティン作業はすべて自動化

Topic : 2024年度省エネ大賞で経済産業大臣賞(小集団活動分野)を受賞

[詳しくはこちら](#)

● 非稼働時間帯における設備の停止徹底など、日常改善による省エネを継続実施

再生可能エネルギーの導入

● 太陽光発電による再生可能エネルギーの導入

● 太陽光発電の各工場等への設置累計をグループ連結で発電出力16,984kW（25年度単年656kW）に拡大

● 2025年1月、国内全車両生産拠点（本社・富士松工場、いなべ工場、吉原工場、刈谷工場、福利厚生施設、岐阜車体）における全ての使用電力を再生可能エネルギーへ切り替え、「再エネ電力100%化」を開始



いなべ工場建屋への太陽光パネル設置状況

■ 循環型社会の構築 取り組み状況・実績

循環型社会・システムの構築

2025目標

主な取り組み実績

石油由来プラスチックの削減

- 植物材料開発と車両部品への実装

- 間伐材等の木の適正管理で得られる木材を微細繊維化し、プラスチックに複合化した成形用樹脂材料「TABWD®（タブウッド※1）」を開発
自動車部品への採用拡大に向けて技術開発を推進中

採用部品の例



フォグラмпブラケット



ワイヤーハーネスカバー



バッテリーキャリア

[詳しくはこちら](#)

- TABWD®の意匠性や風合いを生かした製品を「人とするまのテクノロジー展 2025」に出展

[詳しくはこちら](#)



- 木のつば感と温かみを感じるやさしい風合いを引き出したTABWDの意匠グレードがオフィシアニチャーに採用

[詳しくはこちら](#)



オカムラのミーティングチェア「Runa（ルナ）プレーンタイプ」

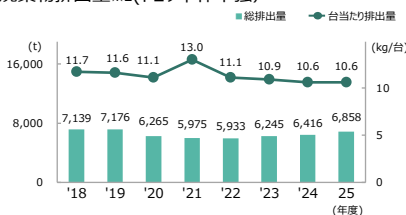
※1 TABWD : Toyota Auto Body WooD

生産活動における廃棄物の低減

- 資源投入量と廃棄物量の最小化

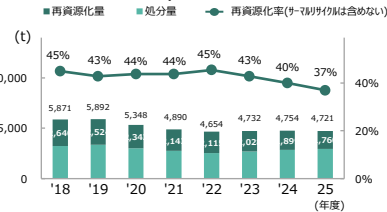
実績推移

■ 廃棄物排出量※2（トヨタ車体単独）



※2 対象：焼却廃棄物+埋立廃棄物+逆有償リサイクル

■ プラスチック再資源化状況（トヨタ車体単独）



- 塗料カス、排水汚泥などの発生抑制および減量
- 廃プラスチックの分別、再資源化（マテリアルリサイクル）を推進

溶融固化によるプラスチック梱包材のマテリアルリサイクル化

梱包材入りゴミ袋



今回

プラスチック溶融機



インゴット



水環境インパクト最小化

2025目標

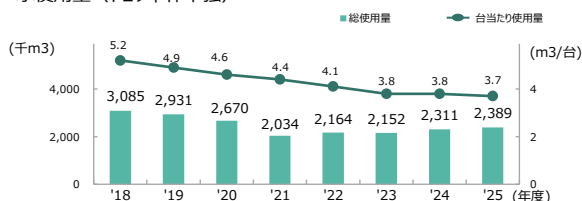
主な取り組み実績

生産活動における水使用量の低減

- 日常改善とライン更新時の節水技術導入

実績推移

■ 水使用量（トヨタ車体単独）



- 生産と連動した洗浄シャワーON/OFF制御、節水ノズルの導入

■ 自然共生社会の構築 取り組み状況・実績

人と自然が共生する未来づくり

2025目標

主な取り組み実績

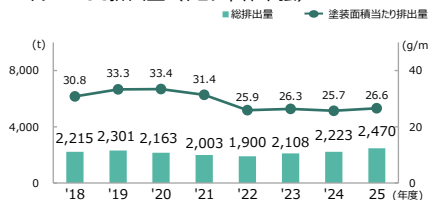
生産活動におけるVOCの低減※1

※1 VOC：揮発性有機化合物

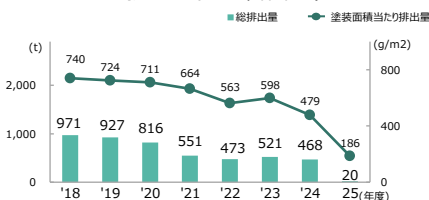
- 塗料の水性化と使用量の低減

実績推移

■ ボデーVOC排出量（トヨタ車体単独）



■ バンパーVOC排出量（トヨタ車体単独）



<ボデー塗装>

- 洗浄シンナー使用量低減および廃シンナー回収率向上

<バンパー塗装>

- 低VOC水性塗料への切り換え
- 洗浄シンナー使用量低減および廃シンナー回収率向上

生物多様性保全

- 地域と連携した、自然と共生する工場づくりの推進

- 本社富士松工場に隣接するふれ愛パークを拠点とした産官学民の連携による地域に根付く生物多様性保全活動を推進（生物の移動拠点としての環境保護のほか、外来種駆除活動、生物と触れ合う環境学習会などを実施）



工場周辺池での外来種駆除と環境学習の様子



捕獲した外来種
上：ミシシippアカミガメ
下：カムルチー（ライギョ）

Topic：ふれ愛パークが環境省「自然共生サイト」に認定（2023年度後期）

[詳しくはこちら](#)

- 工場や関連企業などがある愛知・三重・岐阜・鹿児島・インドネシアでの植林・緑化活動を通じて、森林資源の保全を推進

[詳しくはこちら](#)

■ 環境経営(マネジメント) 取り組み状況・実績

環境マネジメント

2025目標		主な取り組み実績
連結環境マネジメントの推進	● 各国、各地域の環境法令遵守とリスク未然防止活動の徹底	● トップマネジメントの強化のために、「連結子会社生産環境委員会」を設置 環境リスクの未然防止活動や環境負荷削減の取り組みを推進し、環境異常、苦情は発生ゼロを達成
	● グローバルな製品化学物質管理の充実	● 各国規制物質の確認および代替材への切り替え対応を継続実施
仕入先と連携した環境活動の推進	● 仕入先における遵法対応と当社へ納入される部品、原材料等に含まれる環境負荷物質の管理充実および自主的な環境パフォーマンス向上活動の要請	● 「トヨタ車体グループ グリーン調達ガイドライン」に基づき、化学物質管理、環境法令の遵守 環境負荷削減や生物多様性への配慮を依頼し、仕入先と一体となって活動を推進
環境教育の充実と推進	● 従業員教育の充実 ＜自社＞ 階層別、海外赴任者等への教育の実施 ＜連結＞ 各国毎の実情に合わせた環境教育の実施	● 環境月間(6月)、省エネ月間(7月,2月)を設定し、国内子会社を含む従業員への環境啓発（講演会など）を実施 ● 海外子会社への従業員への環境教育を実施（監査毎） ● 新入社員や新任職制を対象にした環境教育を実施
環境情報の開示とコミュニケーションの充実	● 環境保全取り組み結果、内容の継続開示 ● 地域社会とのコミュニケーションの充実	● ホームページへの環境取り組み内容、結果の情報掲載 ● 各工場毎に「地域懇談会」の実施

■環境経営(マネジメント) 取り組み状況・実績

環境情報の積極的開示と双方向コミュニケーション

トヨタ車体の環境活動をより多くのステークホルダーにご理解いただくため、当社ホームページを通じて環境諸情報を積極的に開示するとともに、各工場ごとに「地域懇談会」を定期的開催し、環境問題等についての意見交換を行っています。

●環境異常等への対応

2025年度は環境事故・違反等の発生が0件でした。引き続き各工場で漏洩防止等の未然防止の取り組みを推進していきます。

2025年度 環境事故等発生件数

	富士松 刈谷	いなべ	吉原
事故・違反	0	0	0
苦情	0	0	0

(単位：件)

●地下水管理

自主的に地下水水質の調査を実施しています。外部からの流入と思われる、当社での使用履歴のない物質が検出されていますが、その結果は行政、地域の方々にも説明、報告しています。

2025年度 地下水測定値 (富士松工場) ※1

(単位：mg/L)

	環境基準	測定値
テトラクロロエチレン	0.010	0.015

※1 その他の工場については環境基準未達です

●PRTR対象物質 (PRTR法)

大気へ排出するPRTR対象物質は、塗装工程で使用する塗料および洗浄シンナーに含まれるキシレン、トルエン等が大半を占めています。塗料の水性化や洗浄シンナーの回収率向上を計画的に進めて効果を上げています。

2025年度 PRTR対象物質取扱量・排出量

(単位：t)

	取扱量	排出量・移動量
PRTR対象物質	2,543	830

●環境マネジメントシステム監査・審査

環境マネジメントシステムの維持と継続的改善を目的とした内部環境監査および外部審査を定期的に実施、受審しています。指摘された項目については確実に是正処置をとると共に、他工場への横展開を図っています。

＜2025年度外部審査受審状況＞
更新審査 (9月)

2025年度 環境監査・審査指摘件数

		本社
		(単位：件)
内部監査	不適合	0
	改善・要望事項	14
	優良事項	10
外部審査	メジャーNC※2	0
	マイナーNC	0

※2 NC：nonconformity (不適合)